

1 学校運営の目標・方針

- 「自律」「協同」「創造」の精神を培い、自らの将来に向かって果敢に挑戦し、社会に貢献できる人材を育成する。
- 学ぶ楽しさと学び続ける意欲・能力を育成する。
- 基礎・基本を確実に定着させ、「生きる力」を育む。
- 生命を尊重する心、他を思いやる心など、人間として調和のとれた人格形成を目指す。

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- 学校評価に関する項目について生徒・保護者・教員の3者にアンケートを取り、その結果に基づいて改善策を設定しているの、実施方法としては適切だと思う。またもし必要ならば、このアンケート以外に教員が知りたい内容について生徒実態調査をしてはどうか。
- 学校評価方法を、生徒評価、保護者評価、教員評価とそれぞれの立場で評価し、最終的に総合評価する今の方法は賛同できる。この方法を継続してほしい。
- 生徒と保護者と教員の評価の違いが、問題点と改善点に表れてわかりやすい。
- 今のままでよい。
- アンケートにより、実態について知ることができてよいと思うが、学校に行ってみれば理解が難しい点もある。
- 概ね評価できる。但し、生徒と教員間で評価に乖離がある項目については、原因をしっかりと分析した上で効果的な改善策を講じる必要がある。

【生徒・保護者・教員】

- A: 5.0~4.2
- B: 4.1~3.3
- C: 3.2~2.4
- D: 2.3~0

【総合評価】

- A: 5.0~4.0
- B: 3.9~3.5
- C: 3.4~3.0
- D: 2.9~0

2 本年度の重点目標

- 生徒、教職員が一致協力して、校訓「自立」「協同」「創造」の具現化を図り、活力ある校風づくりを目指す。
- 自己の在り方生き方について考えさせ、職業選択に必要な能力と態度を養うとともに、コミュニケーション能力や課題解決能力を育成するためのキャリア教育を推進する。
- 保護者や地域社会との連携を図り、開かれた学校をつくる。
- 生命と人権を大切に、他者を尊重するとともに、異なる文化や価値観を理解し、多様な人々とともに生きる心を育てる教育を推進する。

5 総合的な学校関係者評価

- 先生方は真摯に学校運営についてPDCAサイクルを回して改善に取り組まれていることは素晴らしいと思う。現状を継続して今後も押し進めていただきたいと思う。
- 今津高校の一番の素晴らしさは、ちゃんと「あいさつ」ができること。時々来校した際にも、私たちに気持ちよく「こんにちは」「おはようございます」とあいさつしてくれる。とても清々しく良い気分になる。社会人になっても、私はこれが一番大切なことだと思う。人とのコミュニケーションの基本中の基本である。それがしっかりしている今津高校を高評価する。それともう一つ「プレゼン能力」の高さである。長年に渡る先生方のご指導・継続力がこんな素晴らしい伝統を造ってきたと評価する。ぜひ2つのダイヤモンドをさらに光り輝せてほしい。
- 生徒は礼儀正しくあいさつができ、指導が行き届いている。学力の向上にさらに力をいれてほしい。
- 特色ある学校運営として、Aの評価が少ないのは残念である。
- 生徒、保護者と職員の評価の差が大きい所は改善が必要と思われる。前年度の評価より下がった、下がりにかけている項目については改善してほしい。
- 概ね評価できる。特に、重点目標達成に向けて、生徒に寄り添いながら指導している姿を評価したい。

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

観点	No.	質問項目	生徒評価 682名		保護者評価 458名		教員評価 55名		総合評価	評価	改善策など	「改善策」の評価
			3.7	B	3.5	B	3.8	B				
学校生活	1	本校の校訓を知っている。	3.7	B	3.5	B			B	<総務>式典の際、校歌を省略せずに歌うので、言葉自体の定着は高い。生徒集会の際、教員がそれに触れた話をする事で内容理解も高まる。	<総務>校訓を「実践」することにつなげるためには、話をするのみならず、教員自身が範となり、「実例」を示していく必要がある。	○改善策で取り組むと同時に、学校・学年行事ごとにその行事が校訓とどのようにつながっているかを言葉にして生徒に伝えてはどうか。 ○「自律」「協同」「創造」。ぜひ実例を示して、具体的に身近な形で話してあげてほしい。 ○教員自身が範となり、実例を示してほしい。 ○良いことだと思う。先生方の言動が模範となるようにしていただきたい。
	2	学校に来るのが楽しい。	3.8	B	4.1	B			B	<1年次>行事や、「産業と社会」の活動に対して積極的に取り組んでいる。 <2年次>1年次に比べ、学習活動、部活動、対人関係などで悩む生徒が増えた。 <3年次>卒業後の進路などの悩みがある中、その悩みの克服のため、生徒は努力している。	<1年次>様々な活動を振り返り、その意義や自分が成分した部分を意識できるようにする。 <2年次>授業、LHR、年次集会などを通じ、心のケアを図っていく。 <3年次>総合三科目をさらに充実させ、目標を持って学校生活ができるように工夫する。	○生徒・保護者とも評価が高いことで良好な高校生活が過ごせていることがわかる。改善策を行うことでこの状況を持続していただきたいと思う。 ○人生の中で一番多感な三年間。成長の伸びも驚きがあるが、その反面悩みも多い年代。そんな中で概ね「学校に来るのが楽しい」と云えるのは高評価できるのではないかな。 ○保護者の評価もよく共感できていると思われる。 ○楽しくない生徒のケアをどうするのか。 ○次回はA評価になるよう努力してもらいたい。 ○年次ごとに、生徒それぞれ異なる悩み(課題)がある中で、寄り添いながら指導しておられ評価できる。
	3	学校での出来事を家庭でよく話をする。	3.7	B	3.8	B			B	<1年次>進路や科目選択で意見の食い違いが生じた家庭もある。全般的には良好な親子関係であると思われる。 <2年次>保護者としっかり話ができている生徒が多いという印象である。 <3年次>家庭の協力が得られているように思う。	<1年次>年次通信の中で学校の様子や予定を保護者に知らせていく。 <2年次>保護者と生徒が対話するきっかけとして、年次通信を利用してもらう。 <3年次>学校について共通の話題作りができるよう努力が必要である。	○生徒評価が昨年と比べ向上している。改善策を予定通り実施いただければよいと思う。 ○自分の時代を振り返ってみると、学校の出来事や親との対話が、一番少なかったように思う。そのことを考えると、素直な良好な親子関係が存在していると想像できる。 ○年次通信を利用して共通の話題づくりをしている。 ○良いと思う。
学校生活	4	年次通信、PTA広報誌など学校からの配布物を保護者に渡している。	3.6	B	3.7	B	3.8	B	B	<1年次>(年次通信について)定期的に出しているが、双方向のやり取りではないので、どのような評価を受けているか分からない。生徒には、保護者に見せるように伝えている。 <2年次>配布物を保護者に見せない生徒が増えてきたような気がする。 <3年次>年次通信の発行日を固定して保護者にわかりやすくしている。	<1年次>年次通信をこれからも定期的に発行し、内容も生徒の活動が分かるように工夫する。 <2年次>保護者会などを通じて、保護者に配布物の確認をお願いする。 <3年次>学校ホームページに年次通信や配布物一覧等を掲載する。	○3年次からの改善策にあるように、学校HPで配布を知らせることはよいと思う。できればすべての学年・部署で行っていただく方が保護者の信頼も得てよいのではないかなと思う。 ○1年次から2年次、年齢が上がるに比例して、配布物を親に見せない傾向にあるように思う。それも自我の目覚めの一つののだろうか。そんな中で学校ホームページに年次通信や配布物一覧を掲載する方法は大賛成である。 ○定期的に発行する。 ○良いと思う。重要な配布物は、学校と保護者相互の確認ができればさらに良いと思う。

観点	No.	質問項目	生徒評価 682名	保護者評価 458名	教員評価 55名	総合評価	評価	改善策など	「改善策」の評価			
教科指導	5	学校はわかりやすい授業を行っており、基礎学力が定着してきた。	3.3	B	3.4	B	4.0	B	B	<教務>生徒・保護者と教員で大きな乖離がみられる。 <教務>主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行うために、授業公開を充実させる。	○生徒・保護者と教員で大きな乖離については具体的に分析する必要がある。成績上位者・中位者・下位者の各層でばらつきがあるのかを調べ、それによって対応策を検討する必要がある。 ○教員と生徒、保護者の意識の乖離は、どこにあるのか、原因を見つけるのは大事と思う。 ○授業公開を充実させ、生徒、保護者との評価の差をうめる。 ○教職員同士の研修、意見交換が必要だと思われる。 ○効果的な改善策を講じるためには、まず乖離している原因の分析が必要ではないか。	
	6	家庭学習の時間が昨年より増えている。	3.4	B	3.3	B	3.8	B	B	<教務>授業と家庭学習をつなげるために、授業の始め方や終わり方を工夫するなどの授業改善を推進する。 <1年次>進路講演、個人面談、授業等を通じて、学問の魅力、将来の進路等の話しをしていきたい。 <2年次>個人面談などを通じて、学習の必要性を説く。 <3年次>総合三科目を更に充実させ、進路に向けて自分がすべきことを積極的に取り組むように動機づける。	○改善策にある通り、教員側の取り組みは継続して粘り強く行っていただきたいと思う。また、生徒の学習時間・内容について、生徒が自ら確認できる方法(例えば、学習履歴ノートなど)を利用し、学習に取り組んだ生徒をほめる仕組み)を考えてはどうか。 ○たくさん大人たちが「あの時、もっと真剣に勉強しておけばよかった、頑張っておけばよかった」と後悔する。先生方の失敗談、後悔している教訓談等、生徒たちに話をさせてほしい。 ○随時、家庭学習の定着について必要性を指導してほしい。 ○良いことだと思われる。	
	7	学習意欲が高まっている。	3.3	B	3.4	B				<教務>生徒・保護者と教員で大きな乖離がみられる。講習・補習・個別指導を必要としていない生徒もいるのではないかとと思われる。 <1年次>長期休み以外には本格的な講習や補習はしていないが、個別の質問はよく受け付ける。 <2年次>部活動が優先されているので、開講しても受講できない生徒が多々いる。 <3年次>HR・進路集会の度に呼びかけている。	<教務>講習・補習に関して、生徒の進路目標や興味・関心に応じた設定ができていないか常に検討していく。 <1年次>学習に対して前向きに取り組む雰囲気をつくりたい。学習合宿なども企画したい。 <2年次>授業で引っ張るしかない。 <3年次>互いに励まし合う学習集団をつくる。	○なかなか難しい問題だと思う。粘り強く先生方の指導をお願いしたいと思う。 ○高校生という年代で、将来の人生設計ができていない人がめずらしい。しかし、もし少しでもその意識を持つことができれば、「今何をすべきか」の目標が決まり、そこに向かう意欲も生まれる。生徒たちが興味を持つ「影響のある方」の講演会などを企画してみたらどうか。 ○きめ細か講習、補習、添削指導をお願いしたい。 ○先生方も忙しいと思うが、生徒が気軽に相談できる時間等の、ここに対応できれば、より良いと思う。 ○生徒、保護者と教員による評価のひらきが大きく改善策が急務。 ○乖離が目立つため、改善策の練り直しが必要でないか。
教科指導	8	講習・補習・個別指導などを積極的に受けている。	2.9	C	3.2	C	4.1	B	C	<生指>昨年度と変化なし。下校時刻19:00は厳守できているので、自覚の問題 <1年次>生徒の自覚によると思うが、中には部活動が負担で家庭学習が思うようにできないという生徒もいる。 <2年次>現状はできていない生徒のほうが多いように思われる。 <3年次>遅くとも19:00下校なので、時間的には両立が可能である。	<生指>特になし <1年次>少ない時間でも時間を上手に使えること学ばせたい。 <2年次>各部の顧問から学習に関しても指導してもらおう。 <3年次>家庭学習時間が増えるように促す。	○評価が高くないのは学習時間が多くないからだと思う。下校時間が守られている現状で部活動が学習を大きく阻害しているとは考えにくいと思う。家庭学習時間をどのように確保するかが課題であると思う。 ○時間はすべての人に公平で一日24時間与えられている。部活が忙しくて勉強できないは、理由にならない。それは社会人になっても同じことが言える。時間の使い方が上手な人が、社会でも活躍しているし、それは学生でも同じである。 ○部活動、家庭学習の両立を支援する体制をお願いしたい。 ○良いと思う。 ○家庭学習は生徒の自覚。無理にやらせても難しい所がある。
	9	部活動と家庭学習の両立ができています。	3.2	C	3.4	B	3.5	B	C	<教務>多くの科目が設置され、多様な選択ができることが、肯定的に捉えられている。 <教務>生徒の進路目標、興味・関心や時代の変化に対応した科目が設置できているか、常に検討していく。	○改善策の内容で結構かと思う。 ○評価できる。 ○できているようだ。 ○進路目標にあたり、専門の方を招くことはできないか。	
進路指導	10	多様な選択科目の中から自分の進路・適性に合ったものが選択できている。	3.9	B	4.0	B	4.0	B	B	<進路>教員の意識と、生徒・保護者との間で差が見られる。目標設定のための情報や、共通テストに向けた情報を提供しているが、その情報を活用できていない生徒について対策が必要である。	<進路>年次と協力して、できるだけ多くの情報を年次を通じて提供し、進路に対する意識を高めさせる。また、インターンシップなどの情報も欠かさず伝えるようにする。	○改善策の内容で結構かと思う。卒業生の話は現役生によく理解されるので、よく学習した卒業生の話を、できるだけ進路HR等多くの機会ですべての生徒に伝えてほしい。 ○教員の方には大変だと思うが、生徒、保護者が、情報に対して満足していないという現実を分析する必要がある。本当にほしい情報は何なのか、どんな指導をしてほしいのか。 ○できるだけ多くの情報を提供してほしい。 ○保護者との連絡を密にとりながら、情報共有できれば良いと思う。
	11	進路に関する適切な情報が提供されている。	3.7	B	3.6	B	4.0	B	B			

観点	No.	質問項目	生徒評価 682名		保護者評価 458名		教員評価 55名		総合評価	評価	改善策など	「改善策」の評価
進路指導	12	模擬試験等を継続的に受け、事後の学習に生かしている。	3.2	C	3.3	B	3.7	B	C	<p><進路> 模擬試験等後の資料を十分に活用できていない生徒が多く、その生徒の意識が影響しているものと考えられる。</p> <p><1年次> 事後の学習に関しては不十分である。ベネッセの情報提供のネットワークにログインした生徒も数件と非常に少ない。</p> <p><2年次> 事前・事後指導が不十分である。</p> <p><3年次> 模試の振り返りを次の模試へ繋がる取り組みの強化が必要である。</p>	<p><進路> 模擬試験等の実施時期を年次と相談しながら、適切な時期に実施できるように調整するとともに、情報については、適宜生徒に提供できるよう努める。</p> <p><1年次> 模試結果や入試情報を積極的に得るきっかけとして、LHR中に実際にベネッセの情報ネットワークにログインさせ体験させる。</p> <p><2年次> 結果だけで一喜一憂するのではなく、各教科で事前・事後指導に力を入れる。</p> <p><3年次> 年次集会、HRで必ず振り返りの時間を設け自己診断、学習計画を立てるようにし、個別指導も行う。</p>	<p>○学力の確認に模擬試験の活用は重要だと思う。事後の振り返りが家庭でするようにセルフチェックシートを配布しそれを提出させる(もしくは放課後させて提出させる)などということはどうか。</p> <p>○模擬試験を受けること、継続的に受けることだけが目的になっているのではないか。本当の意味を今一度繰り返し繰り返し、伝えてあげなければならないのではないか。</p> <p>○適切な時期に実施し、講義するとともに、情報については、適宜生徒に提供できるよう努めてほしい。</p> <p>○良いと思う。</p> <p>○改善策は十分に考えられるので、生徒に実践してもらえればよい。</p> <p>○概ね評価できるが、模擬試験等の結果を有効に活かしてきていないのではないか。PDCAマネジメントサイクルに落とし込むと、もっと効果的に指導できると思う。</p>
	13	進路校外学習などをとおして、職業観・勤労観が身に付いた。	3.6	B	3.6	B	4.1	B	B	<p><推進> 今年度は1年次2年次とも、7月に進路校外学習、10月に総合校外学習を実施した。また、1年次は「産業社会と人間」において職業別ガイダンス、社会人インタビューを実施し、職業観・勤労観を得る機会を設けている。</p>	<p><推進> 2年次10月の校外学習はフィールドワーク研修の側面もあり、訪問先の選定に苦労している。進路指導部や年次と連携を図りながら、有意義な校外学習となるよう訪問先を吟味したい。また、事前学習を今まで以上に充実させ、生徒がより主体的に学ぶ機会となるようにする。</p>	<p>○校外学習は準備に多くの手間がかかると思うが、事前学習・指導を十分すれば、校外学習はその生徒にとって大きな学びになるので、先生方には継続して推し進めていただきたいと考える。</p> <p>○生徒たちが自分で選択先を選び、研究課題を考え、生徒主体の活動をさせてみたかどうか。</p> <p>○満足している。</p> <p>○良いと思う。</p>
	14	「産業社会と人間」「総合学習」「課題研究」など生き方について考える機会が多い。	3.7	B	3.6	B	4.2	A	B	<p><推進> 概ね良好であるが、総合三科目の学びは、総合学科の教育課程において根幹となるものであるため、より主体的な学びの機会となる必要がある。</p>	<p><推進> 総合三科目のねらいや本質について教師自身も十分に理解し、共通認識を持って授業の指導に当たることが大切である。これまでの取り組みを生かしながら、新たな取り組みを試みていきたい。</p>	<p>○生徒の評価が前年度と比べ少し下がっているのが気になる。生徒のみなさんが、感動したり、充実感・達成感があつたりする瞬間をより多く持てるように教員のみなさんのご指導をよろしく願いたい。</p> <p>○総合三科目のねらい、本質について、生徒たち、教師が共有認識を持つことは大切で、新たな取り組みを試みてほしい。</p> <p>○満足している。</p> <p>○良いと思う。</p>
生徒の自主性	15	総合学科での学習をとおして、課題設定や課題解決の能力が伸長した。	3.6	B	3.6	B	4.2	A	B	<p><推進> 1・2年次はグループで、3年次は個人で課題解決型の学習に取り組んでいる。着実に力はついていてと考えるが、より積極的な取り組みが必要である。</p>	<p><推進> 教師自身が共通認識をもち、各教科それぞれにおいても、生徒に課題解決の成功体験を積み重ねさせる工夫をしていく必要がある。</p>	<p>○改善案にあるように、生徒に成功体験を積み重ね、自己肯定感を高めるようにしていただきたいと思う。</p> <p>○高評価。生徒の課題解決の成功体験を積み重ねる工夫には賛成である。</p> <p>○満足している。</p> <p>○良いと思う。</p> <p>○生徒に学ぶことへの興味を持たせることが難しい時代だと思うが、生徒に課題解決の楽しさを伝える努力をされていると思う。</p>
	16	生徒会活動やホームルーム活動では主体的に活動している。	3.3	B	3.5	B	3.9	B	B	<p><生指> 生徒会役員は、朝の登校指導にも参加するなど、積極的に活動している。</p>	<p><生指> 募金運動やボランティアの機会を増やし主体的に活動する姿勢を高める。</p>	<p>○各クラスで地域に主体的に貢献すること(内容)を考えさせ、行動させてはどうか？</p> <p>○良好</p> <p>○生徒自身の評価が低いのが気になる。</p> <p>○良いと思う。多くの機会があればさらに良いと思う。</p>
	17	文化祭や体育大会等の行事に積極的に取り組んでいる。	3.9	B	4.1	B			A	<p><生指> 昨年度よりは、保護者回答が0.1ポイント上昇。</p>	<p><生指> 体育大会・生徒会種目など、生徒のアイデアをできるだけ活かしていく。</p>	<p>○改善策の内容で結構かと思う。</p> <p>○文化祭、体育大会、高評価素晴らしい。将来きっと良い思い出になる行事である。</p> <p>○良い傾向であると思う。</p> <p>○学校側が、あまり生徒のアイデアを採用していないように感じる。</p>
生活習慣	18	集会などを通して、学校や学年の生徒指導方針がよく説明されている。	3.7	B	3.6	B	4.1	B	B	<p><生指> 教師と保護者・生徒の間で、ポイントの開きがある。</p>	<p><生指> 学期末の集会などで、繰り返し指導している。</p>	<p>○改善策の内容で結構かと思う。</p> <p>○引き続きよろしく願いたい。</p> <p>○繰り返し指導をお願いしたい。</p> <p>○良いと思う。</p>
	19	挨拶・時間厳守・携帯電話の使い方などの基本的な生活習慣が身に付いている。	4.0	B	3.8	B	3.9	B	B	<p><生指> 携帯の違反などは1年次の1学期が多い。全体的には、概ねルールは守られている。</p>	<p><生指> 冬場の遅刻を減少させたい。</p>	<p>○改善策の内容で結構かと思う。具体的な方策を決定し実行していただければと思う。</p> <p>○今津高校生のあいさつ習慣は素晴らしい。</p> <p>○繰り返し指導をお願いしたい。</p> <p>○「リフレ」の件を、もっとわかるやすく生徒に話していただきたい。</p> <p>○十分に指導が行き届いており評価できる。</p>

観点	No.	質問項目	生徒評価 682名		保護者評価 458名		教員評価 55名		総合評価	評価	改善策など	「改善策」の評価
人権	20	保健室・教育相談室など、悩み事を相談できる体制が整っている。または、親身になって相談に乗ってくれる先生がいる。	3.5	B	3.7	B	3.9	B	B	<p><保健>保健室において様々な生徒たちの相談等で来室者数も多い。気になる生徒には、キャンパスカウンセラーと連絡を密にとっている。</p> <p><保健>カウンセリングマインド研修会を実施し、生徒たちの相談しやすいような雰囲気づくりに努め、保健室と年次との連携をさらに強化する。</p>	<p>○保健室と学年、また学年内での情報共有は重要である。改善策を押し進めていただければ結構かと思う。</p> <p>○保健室は体だけでなく心の悩みを持った人の「駆け込み寺」。しっかり話し、相談に乗ってあげてほしい。</p> <p>○満足している。</p> <p>○良いと思う。</p> <p>○来室者が多いことから生徒と信頼関係が構築できているのではないか。</p>	
	21	いじめのない学校づくりが進められている。	3.8	B	3.8	B	4.2	A	B	<p><生指>昨年度と変化なし。生徒・保護者のポイントが少し低い。</p> <p><生指>アンケートの実施などを、周知していく。</p>	<p>○改善策の内容で結構かと思う。</p> <p>○「いじめのない学校づくり」安心している。</p> <p>○家庭にお願いする。</p> <p>○生徒個々に対応していただきたい。</p>	
	22	色々な授業や行事を通じて、命と人権を大切にす教育が行われている。	4.0	B	3.8	B	4.0	B	B	<p><図書・人権>今年度は「在日外国人問題から多文化共生・多様性を考える」というテーマで、前期は映画「焼肉ドラゴン」鑑賞を通して在日コリアン問題について考え、後期は日本・フィリピンダブルの三木幸美さん(とよなか国際交流協会)の講演を通して外国ルーツの苦悩などを当事者から聞いて共生社会の実現について考えた。また、各教科でも、教科書に沿って人権課題を適切に扱っている。</p> <p><図書・人権>教材や指導方法について事前検討会を持ち、指導しやすいように修正などを協議し合えたことは大きな前進だと考える。そのためには、余裕をもって取り組めるように早期に計画を立てることが重要である。講演会については、実際に講演などを聴いた人から選定することが望ましいと考える。また、校外研修会の適度に活用するため、随時紹介していく。</p>	<p>○具体的な教材を用いて学習を進められていることはよいことだと思う。生徒の心に響くアプローチで指導していただければと思う。</p> <p>○今後益々インバウンド需要が増えていく。それに伴って国境という意識の垣根が低くなり、一人の人間対人間の付き合いを、接し方が今以上に大切になってくる。よりグローバルな人間としてこれからの日本を支えてほしい。</p> <p>○満足している。</p> <p>○良いと思う。</p>	
その他	23	(勤務時間の適正化)勤務時間の適正化を目指し、教職員一人一人が業務改善に取り組んでいる					3.3	B	B	<p><教頭>評価はBであるが、教員評価の中では低評価であり、昨年度よりさらに低下している。職員の多忙感が評価に表れている。</p> <p><教頭>教員一人一人が、業務改善に向けて意識改革を進めるためには、衛生委員会などを活用した組織的な取り組みが必要である。特に、定時退勤日、ノ一部活動デーを定着させ、職員に気持ちのゆとりが生じるよう努めていく。</p>	<p>○勤務時間を適正にするには業務の取捨選択が必要になる。細かいことでもよいので時間短縮に貢献できた取組について年度末にまとめてその情報を共有し、余裕をもったよりよい教育のために勤務時間の適正化が必要であることを再確認する時間をとってはどうか。</p> <p>○部活動を中心に民間の方に委託できる部分はドンドン実施していったらいいと思う。少子化に伴い、1クラスの生徒数も25名程度にし、負担を減らす。それでないとなら今後教員を目指す人が激減してしまう。</p> <p>○教員と学校の方針にずれがあるのでは。</p> <p>○良いと思う。</p> <p>○「働き方改革」については組織が一体となり取り組む必要がある。新たな学校組織の運営手法について方策を検討し、実践していただきたい。ICTの積極的な活用も業務改善につながる可能性がある。</p>	